

豆狸の寝言

前副会長 故・三原幸二

昨年の暮れに忘年会、年末懇親会などといったものに出掛けたのは10回程ありました。忘年会という言葉を広辞苑で調べてみますと……——その年の苦勞を忘れるために年末に催す宴会——と記されています。

昨年の夏に手術をして2週間程入院をしました。大した病気でもなかったのに意識は早くからあり、色々と考え事をする時間が十分にありました。そんな中で元気になったら少しは世の中にお役に立つような事をしなければという気になり、ぜひ実行しようとその時は思っていました。

病気も少しは回復し、会合にも参加できるようになり、私よりも重病だった知人とも再会することが出来ました。話の中で知人も病床で私と同じような事を考えたとき、しみじみと語ってくれました。

5か月を経た現在、その事が私の脳裏から完全に消え去っているように思います。悪いところを治してもらい、入院中の苦痛からくれば今はまるで天国。その有り難さを何もしなくても忘れていくのに、あえて忘年会にいそいそと参加するのは気が引ける思いがします。あの時に感じた感謝の気持ちと奉仕の精神を忘れないために忘年会を少し減らそうかなと、真剣に只今思っているところでございます。

(忘れてはいけない事) 2009年執筆

